

中央教育審議会大学分科会制度・教育部会
「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」に対する意見

開倫塾
林 明夫

Q：社会で求められる力と大学教育への期待は何ですか。

A：(林明夫：以下省略)「地域の発展における大学の役割」が大切です。

Q：学士課程の使命と教育内容・方法についてどう思いますか。

A：「学士課程における外国語教育、とりわけ英語教育の重要性」についても明記すべきです。その際、ヨーロッパでは「外国語教育の共通参照枠」を設け、ヨーロッパの大学における語学教育のレベルを飛躍的に向上させたことを参考にすべきと考えます。

欧米の大学では、語学の授業は「第2言語としての〇〇語教師」という語学教師としての専門職大学院修士課程修了以上者にしか担当させません。日本では、その言語を用いて学術研究している研究者に、英語を含めて学士課程で語学を担当させている場合が非常に多いようです。しかし、その言語を用いて研究している研究者は、必ずしもよい語学教師とは言えません。日本の大学の語学教育は、担当教師の生活のためであって、学生のためではないとすら言えます。

Q：大学教員の評価と能力開発について、どうお考えですか。

A：「すべての学部・学科とすべての大学院の研究科に、その学問領域の教授法の講義(講座)を最低1つは設置すべき」です。将来、高等教育機関でその学問領域について指導する立場に立つことを希望する学生・大学院生には必ず「教授法」を履修させることが大事です。

大学入試の機能と大学の役割では、「高大連携」についての言及が少ないようですが、高校卒業者の約半数が4年制大学に、また、約8割が高等教育機関に進学するか、進学を希望する「大学の大量化」の現況を踏まえると、高等学校において「Learning To Learn 学び方を学ぶ(学習の学習)」のスキルを十分に身に付けることが求められます。大学等の高等教育機関での教育や研究の前提となる「Learning To Learn 学び方を学ぶ(学習の学習)」のスキルを身に付けることを、高等学校の教育でも徹底すべきです。

「図書館の使い方」「辞書の使い方」「ノートの取り方」「授業の聴き方(受け方)」などの教育を、全くといってよいほど高校で受けたことのない大学生が多く見られます。

Q：9月入学についてはどう思いますか。

A：「外国人留学生(編入学生)や外国人教員の受け入れのため9月入学は必須である」ことについてですが、日本の大学の質的向上を図りながら国際競争力を高めるためには、外国人留学生と外国人教員数を大幅に増加させる必要があります。「留学生30万人計画にも9月入学は直結」いたしますので、今から準備をする必要があります。